

熊本県博物館ネットワークセンターだより 熊本の自然と文化

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター

2020年8月7日



No. 46

イベント情報（令和2年8月～11月）

企画展

会場：熊本県博物館ネットワークセンター

入場無料

第1回企画展 『『レッドデータブックくまもと2019』の動物たち』

○開催期間：令和2年7月28日（火）～10月11日（日）

昨年、10年ぶりに熊本県のレッドデータブックが改訂されました。この本で紹介されている生物たちは、開発や外来種の侵入、乱獲などによって絶滅が心配されています。今回の企画展ではレッドデータブックに掲載されている県内の貴重な動物たちを、当センター所蔵の標本資料を用いて紹介します。



クロツラヘラサギ



アマクササンショウウオ



オオルリシジミ

第2回企画展 「わらといのり ～民俗写真家の眼差し～」

○開催期間：令和2年9月8日（火）～10月11日（日）

わらは身近な素材として、様々な場面で利用されてきました。しかし、農業の変化や新素材の登場によって、仕事や日常生活の中からわらは姿を消しつつあります。一方で、祭や行事、儀礼などで用いられる飾りや供え物には、現在でもわらが使われつづけています。今回の展示では、現在まで人々の祈りを形にきたわらの祭祀具に注目し、民俗研究家の白石巖氏が残した膨大な写真資料の中から、熊本県内のわらの飾りや供え物の写真を紹介します。



↑水神祭り（上益城郡御船町滝尾）

←カワマツリの供え物（熊本市弓削町山尻）

～ご来館の皆様へのごお願い～

- 入館の際はマスクの着用をお願いします。
- 入館時に、設置している消毒液による手指の消毒をお願いします。
- 氏名・連絡先、健康状態の記入をお願いします。※感染症拡大防止策以外の目的では使用しません。
- 館内では、周囲の人と2m程度の間隔を取ってください。
- 展示室の最大人数を10人程度とするために、入場をお待ちいただく場合があります。

No. 239
動物

ミナミメダカ *Oryzias latipes* (メダカ科)

日本のメダカは近年、^{いでん}遺伝学的な分類手法によって、キタノメダカとミナミメダカの2種に分けられました。九州にはミナミメダカ(写真1)のみが分布していて、^{ありあけ}有明型や^{さつま}薩摩型など、遺伝的に異なるいくつかの地域集団に分かれていることが知られています。

日本人にとって最も身近な魚の一つであった“メダカ”が全国的に減少し、1999年に環境庁(当時)がレッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として掲載した際には、ニュースや新聞でも大きく報じられました。減少の要因として、農薬による水質汚染や水路の三面コンクリート化、競合種となるカダヤシの侵入などが指摘されています。さらに近年では、ヒメダカなどの改良品種に加えて野生種も^{あいがん}愛玩用・教材用に広く流通しており、これらの^{いっしゅつ}逸出や^{いまい}遺棄、あるいは“保全”と称して行われている放流により、在来の地域集団に^{かくらん}遺伝的攪乱が起きている事も問題となっています。

写真2の標本は、宇城市の農業用水路で採集されたものです。「レッドデータブックくまもと2019」では準絶滅危惧とされ、県内全域で環境悪化などにより減少しているとされています。(中菌 洋行)



写真1 ミナミメダカ (宇城市産飼育個体)



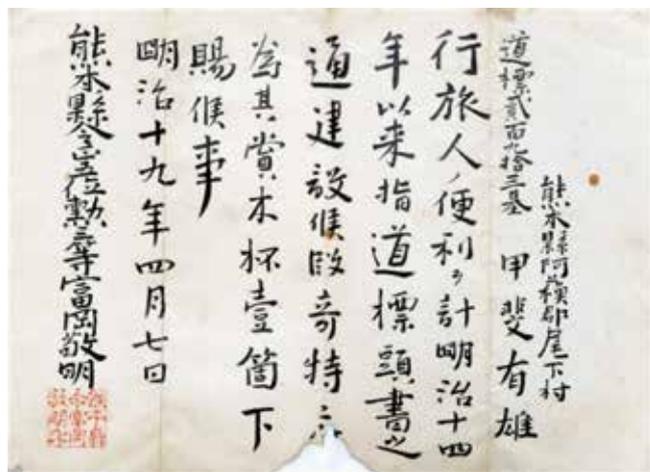
写真2 ミナミメダカ標本 (宇城市産)

No. 240
歴史

^{ほうしょうじょう}褒賞状 (高森町瀬井家資料)

阿蘇郡^{おくだり}尾下村(現・高森町)出身の^{かいありお}甲斐有雄は、石工を生業とする傍ら、阿蘇を中心とした地域に石道標の建設をおこなった人物です。石道標の建設は文久元年(1861)からおおよそ50年にわたって独力で続けられ、明治41年(1908)までに1900基もの道標が建てられたといわれます。

写真の褒賞状は、明治19年(1886)に熊本県から有雄に贈られ、子孫である瀬井家に伝えられたものです。内容は明治14年(1881)以来293基の道標を建設したことに対する褒賞となっており、旅人の便利のために道標を建設したことは奇特(優れたおこない)である、として木杯1個を与える旨が記されています。



熊本県から贈られた褒賞状

有雄の長年にわたる道標建設に対しては、すでに慶応2年(1866)から数回にわたって熊本藩や白川県、熊本県から褒賞されており、その度に金銭や銀杯が褒賞状とともに与えられました。また、明治35年(1902)には宮崎県西臼杵郡にも道標を建てたことで宮崎県からも褒賞されています。この一連の功績から昭和33年(1958)には熊本県近代文化功労者として顕彰されています。

有雄が行った道標建設という取り組みは、瀬井家資料に残されたこれらの褒賞の記録をはじめとする資料によって今に伝えられています。(古澤 広大)

No. 241
植物

ハマボウ *Hibiscus hamabo* (アオイ科)

頻^{ひんぱん}りに海の水がかかるような海岸環境は、日差し、風、乾燥、塩分条件が厳しく、植物にとっては生育しにくい不安定な環境です。そのような環境は、樹木よりも草^{そうぼん}本の方が生育に適しているようです。その中で、ハマボウは海岸環境に生育する数少ない樹木の一つです（写真 1）。ハマボウは、河口、内湾、汽水湖沼^{きすいこしやう}の岸のような、海水あるいは海水が混じる環境の水辺に生育し、半マングローブ植物などと呼ばれることもあります。幹はそれほど高くなり、枝分かれし、時に這うように伸びるので、丸い樹形になります。円形に近い葉には両面に毛があり、裏面は特に毛が多いため灰白色に見えます（写真 2）。夏に咲く花は、直径 5cm 程の大きさになり、5 枚の花弁は鮮やかな黄色で、とても目立ちます（写真 3）。

写真 4 の標本は、天草市の樋島^{ひのしま}で採集されたもので、1971 年におこなわれた樋島の植生調査で得られた標本の一つです。この調査で集められた標本が当センターにおさめられており、当時の樋島の植生をうかがい知ることのできる貴重な標本群となっています。（前田 哲弥）



写真 1 天草市新和町のハマボウ群生地



写真 3 ハマボウの花
花の中央は赤い



写真 2 表の毛（左）と裏の毛（右）



写真 4 ハマボウの標本

No. 242
地学

ほうかいせき
方解石

方解石は、地球上で多く産出する炭酸カルシウムの鉱物です。方解石の結晶は一般的に平行四辺形で囲まれた菱^{りやうめんたい}面体や、他にも先のとがった犬^{けんがじやう}牙状や釘の頭のような釘頭^{ていとうじやう}状、板状など色々な形のものがあります。

写真 1 は、宇城市豊野町水昌山^{すいしやうざん}で採取した方解石の結晶です。この結晶は六角柱状で一見すると水晶（石英）の結晶のようですが、うすい塩酸をかけると激しく発泡するので、方解石だとわかります。

水昌山では、東西方向の嶺に沿って、方解石の結晶が集まってできた結晶質石灰岩が分布しています。水昌山の結晶質石灰岩は、細かい方解石の結晶が集まった白い岩石がほとんどですが、一部の場所では写真 1 のような六角柱状の結晶が集まっています。

方解石の中にはブラックライトで紫外線を当てると光るもの（蛍^{けいこう}光）があります。有名なのはマンガンを含んだ方解石で、赤～オレンジ色に光ります。水昌山の方解石は、写真 2 のように白く光ります。このように、同じ鉱物でも色や反応が異なったり、蛍光しないものがあったりします。

蛍光する鉱物は他にもありますので、身近な石で試してみたいかたがでしょうか。ただし、紫外線を直接見ないように気をつけましょう。（廣田 志乃）



写真 1 水昌山の方解石

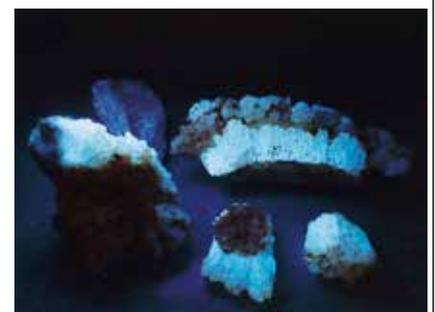


写真 2 水昌山の方解石（蛍光）

No. 243
民俗

カワマツリの供え物



写真1 オタル



写真2 分田のカワマツリの様子

田植えが終わった頃から夏の土用にかけて、県内各地の水辺ではカワマツリと呼ばれる行事が行われます。水神への豊作祈願という側面もありますが、水遊びをする子どもたちにカッパが悪さをしないように祈るという所が多いようです。カッパは河川や沼、池、海など水界に住むとされる妖怪で、県内ではガラッパ・ガワッパ・カワワロなどと呼ばれ、様々な昔話や伝説が残されています。カワマツリではカッパの好物とされるきゅうりなどの夏野菜やそうめん、せんべい、魚の干物などと、カケグリ・カックリ・タカンポなどと呼ばれる竹で作ったお酒入れを笹竹に下げて水辺に立てて供えることが多いようです。また、稲や麦のわらで様々な形のものを作るところもあります。

写真1は山鹿市鹿本町分田地区のカワマツリ（行事日：7月20日）の供え物です。麦わらと竹で作られたこれはオタルと呼ばれ、祝いの酒を持っていくときに使う角樽つのだるを模しています。オタルになすときゅうりの輪切りを竹串で刺し、さらにオタル本体を竹に吊り下げます。竹の先端には、米・塩・いりこを半紙に包んだものはさみこみ、集落を流れる沢のほとりに立てて、子どもたちの水難事故防止と田の水が不足しないように祈ります。わらで角樽つのだるを模したものを作るところは熊本市周辺から宇城市にかけ広く見られます。

写真3は益城町広崎地区のカワマツリ（行事日：夏の土用三日目）の供え物です。稲わらの苞つとに足をつけたような形状のこれはタコと呼ばれ、中にカッパの好物とされるそうめんや野菜をつめて、秋津川の土手に組んだ真竹に下げ、子どもたちの水難事故がないように祈ります。中に野菜などを詰めたわら苞たこを供えるのは県内で広く見られますが、これを海の蛸たこの形に作るのは緑川水系の地域でよく見られます。ただしその理由は分かっていません。

ほかにもわら舟やわら人形を下げる場所もあり、供え物には県内で様々な特色がみられます。（迫田 久美子）



写真3 タコ



写真4 益城町広崎のカワマツリの様子

熊本県博物館ネットワークセンター

〒869 - 0524 宇城市松橋町豊福 1695

TEL : 0964 - 34 - 3301 FAX : 0964 - 34 - 3302

E-mail : hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp

HP : <https://kumamoto-museum.net/kmnc/>

[公共交通機関]

○九州産交バス

松橋バスターミナルより宮原経由

八代市役所行き「希望の里入口」下車

○JR

松橋駅より約 3 km

